

PRAEVIDENTIA DAILY (7月11日)

昨日までの世界：豪失業率の予想以上の上昇で豪ドル安

昨日は、ポルトガルの大手銀行であるエスピリト・サント銀行の親会社が短期債務返済を見送ったことから欧州銀行問題に対する懸念が急速に台頭し、欧州を中心に株価が下落し、欧州周縁国債券利回りが上昇する中、ユーロが下落した。そしてポンドやスイスフランなどの欧州通貨も対ドル、対円でつれ安となった。

ドル/円相場は、株安と米長期債利回りの大幅低下（一時 2.49%）を受けて一時 101.07 円へ下落したが、NY 時間引けにかけて米株や米長期債利回りが持ち直したことから、101.30 円近辺へ小反発して引けている。この間、米新規失業保険申請件数は 30.4 万件と前週および市場予想を下回ったが、殆どドル押し上げ効果はなかった。

豪ドルは、豪雇用統計で失業率が 6.0%と市場予想以上に上昇したことから下落、欧州時間にかけては欧州株安も豪ドル売りに拍車をかけた。豪雇用統計では雇用者数は+1.59 万人と市場予想以上に増加したものの、増加はパートタイム労働者の増加によるものでフルタイム労働者が減少するなど、内容的には悪いものだった。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米2年金利差	米2年金利	日2年金利	米10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	-0.3	-0.02	-0.02	+0.00	-0.01	-0.01	-0.01	-0.4	-0.6	+0.6	+0.4
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.2	+0.02	-0.00	-0.02	-0.02	-0.03	-0.01	-1.5	-0.4	+0.4	+0.10
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.2	+0.01	-0.01	-0.02	-0.02	-0.03	-0.01	-0.7	-0.4		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	-0.2	-0.02	-0.04	-0.02	-0.04	-0.05	-0.01	-0.4	-0.0	-0.5	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	-0.0	-0.04	-0.06	-0.02	+0.00	-0.01	-0.01	-0.4	-0.0	-0.5	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.0	-0.02	-0.02	+0.00	-0.01	-0.01	-0.01	-0.4	+0.6	-0.5	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：カナダドル、最後の輝きか、終わりの始まりか

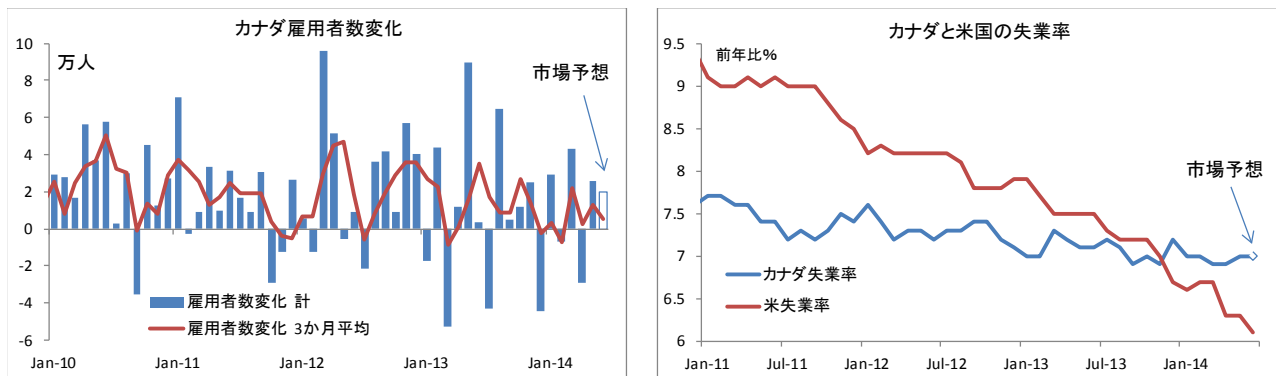
きょうの注目通貨：USD/CAD ↓

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
豪5月住宅ローン・前月比	10:30	0.0%	-0.5%	
カナダ6月雇用者数変化	21:30	+2.58万人	+2.00万人	
同失業率		7.0%	7.0%	
Lockhart アトランタ連銀総裁、 Evans シカゴ連銀総裁、 Plosser フィラデルフィア連銀総裁発言	3:45			ややタカ派、投票権なし ハト派、投票権なし タカ派、投票権あり

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

本日はカナダ雇用統計が最も相場を動かしそうで、結果を受けてカナダドルは大きく上下するだろう。カナダドルは6月20日にカナダインフレ率が市場予想を上回って以来大きく上昇しており、雇用統計も市場予想を上回れば米ドル/加ドル相場が1.06ドルを割り込んで続落（カナダドル続伸）の可能性もある（下図を参照）。より長期の方向性としても、市場ではカナダ失業率が年末にかけて6.8%へ低下すると予想されており、どちらかというと予想比良好となる可能性が高いだろう。他方、市場予想程度に留まったり、市場予想を下回るようだと、来週のカナダ中銀金融政策決定に向けたタカ派化期待が弱まり、これまでのカナダドル買いポジションの巻き戻しが起き始める可能性もある。また、失業率は低下方向とはいえ、米国と比べて低下ペースは非常

に緩慢であるため（下図を参照）、カナダ雇用統計については予断を持って臨むのは難しい。



来週の注目通貨：USD/CAD ↑ ↑

来週の指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
<14日>				
<15日>				
日銀決定会合	未定			市場予想は政策変更なし
英6月CPI前年比	17:30	+1.5%		BoE物価目標は1-3%
ドイツ7月ZEW期待指数	18:00	29.8		
米6月コア小売売上高・前月比	21:30	0.0%	+0.5%	除く自動車・ガソリン・建材
Yellen・FRB議長議会証言	23:00			16日にも議会証言
<16日>				
NZ2QCPI前年比	7:45	+1.5%		RBNZ物価目標は1-3%
英5月失業率	17:30	6.6%		
同週平均賃金・前年比		+0.9%		
カナダ中銀金融政策決定	23:00			
<17日>				
トルコ中銀金融政策決定・レポ金利	20:00	8.75%	8.25%	
米6月住宅着工件数	21:30	100.1万件	102.0万件	
南アSARB金融政策決定		5.50%		
<18日>				
カナダ6月コアCPI前年比	21:30	+1.7%		カナダ中銀物価目標は1-3%

（出所）プレビデンティア・ストラテジー作成

来週は（日銀よりも）カナダ中銀金融政策決定（16日）と英国の失業率（16日）およびCPI（15日）が最大の注目だ。カナダドルは6月20日発表のカナダCPIが総合+2.3%、コア+1.7%と市場予想を大きく上回って以降、カナダ中銀のハト派度後退期待が高まり、1.08ドル台だった米ドル/加ドル相場は一時1.0621ドルへ1.5%上昇、6月19日対比では主要通貨で最高のパフォーマンスを誇っている。カナダ中銀声明文では、前回6月4日時点では残っていた「インフレ見通しの下振れリスクは従来同様に重要」という表現が削除されるか和らげられる可能性が高いが、それはこれまでのカナダドル上昇で既に織り込まれている。むしろ、GDP成長率や企業景況感が市場予想を下回っている中で、カナダ中銀はこれ以上のカナダドル高を望んでいないはずだ。特に、米ドル/加ドル相場は対米金利差との連動性が非常に高いことから、カナダ中銀が米国よりも早期の利上げ期待を高めるようなタカ派化を意識的に行うとは考え難い。このため、声明文は市場予想ほどタカ派的な内容とはならず、カナダドルは声明文発表後に急反落する可能性が高いだろう（詳細は6月21日付週次レポート「Loony Loonie - 狂ったカナダドル？」を参照）。

英国では、失業率の更なる低下と、低下傾向にあるインフレ率の低下一服が確認されれば、ポンド相場は7月23日発表のBoE議事要旨に向けて対ドルおよび対ユーロで年初来高値（各々1.7180ドル、0.7915ポンド）を上回るだろう。リスクはCarney総裁も指摘している賃金の伸びの弱さだが、失業率の低下が続けば、将来的な賃金上昇期待は高まるはずだ。（詳細は7月5日付週次レポート「GBP：タカ派の多寡」を参照）

ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641